



放射冷却で薄氷も見られた今年最後の活動は、9名の精鋭が集結して里山作業にいい汗を流しました。

参加者の減少が続き、一時は持続的な活動の存続が危機に瀕すると危惧されましたが、寒さとともに参加者は徐々に盛り返し、活動に興味を持ってくれる新たな仲間も加わりました。

今回、総務省から出稼ぎ中の白倉さんが新メンバーとして参加してくれました。

「やりたい作業」、「しなければならない作業」はテンコ盛り。引き続き皆様の積極的な参加をお待ちしていま〜す。

里山そのものが存続の危機

活動を始めてから5年、活動フィールドでは、シ/フヤ雑草の勢いが低下している一方で、ナラ枯れの被害が急速に拡大してきました。

文献によると、ナラ枯れの歴史は古く、1930年代に九州地方での被害が報告されています。その後、東北から近畿、四国、中国、九州地方で散発的な被害がありましたが、現在のように被害が拡大することはありませんでした。

ナラ枯れは、林齢40年以上の大木で多く発生す



更にナラ枯れが広がらないことを望みます

る傾向があると言われていたが、活動フィールドでは、比較的林齢が若い樹木にも被害が及んでいるように思います。

薪炭林としての利用が無くなり大木が多くなったことに加え、枯死木の放置が翌年の被害増加につながっています。私たちは、シ/フヤよりも手強い相手に直面しているかもしれません。

枯れた樹木から萌芽更新は期待できないので、種子から芽生える実生が育ってこない場合は、植林に取り組む必要があるでしょう。

懐かしい里山風景が消えてしまうのは淋しいものです。そうならない取り組みを続けていきましょう。

※ナラ枯れ豆知識

ナラ枯れは、カシ/ナガキクイムシが病原菌を伝播することによって起こる、樹木の伝染病と言われています。

カシ/ナガキクイムシは東南アジアに広く分布しており、一夫一妻と地味な性格でありながらも、被害を受けた樹木からは、数百以上の次世代が発生する坑道も確認されており、爆発的な繁殖能力を備えているとのこと。

今回も頑張ったぞ)^o^(

格言に「継続は力なり」。続けることの重要性、弛まず挫けずに続けていくことの大切さを端的に表現していますが、その意味合いの一つに「物事を成し遂げるまで諦めずに取り組み続けるということは、それ自体、優れた能力のひとつである。」というのがあります。行動が伴わない評論家ではなく、傍観者でもない、まちづくりに関わる市職員としての社会的な責任を果たすことに共感する多くの皆さんの参加を期待します。)^o^(



次回活動日のお知らせ

日程：平成29年1月21日(土) 午前中の作業です
時間：午前8時30分 市役所正面駐車場集合
内容：キコリ班による伐採と活動フィールドの整備



メンバー募集 キノコモクラブでは常時メンバーを募集しています。

公務員も仕事外の活動に参画し、地域おこしや社会貢献をどんどんやろうじゃないか。この想いを持つ全国の国・地方の公務員が、「地域に飛び出す公務員ネットワーク」のもとで活躍しており、キノコモクラブのメンバーも活動内容を全国に発信しています。里山からの恵みを享受しながら、持続可能な活動を目指しています。特に、若くて体力のあるみなさまの積極的な参画をお待ちしております。興味のある方は、木津川市役所 マチオモイ部の武田までご連絡ヨロシク。